

8/16 福井

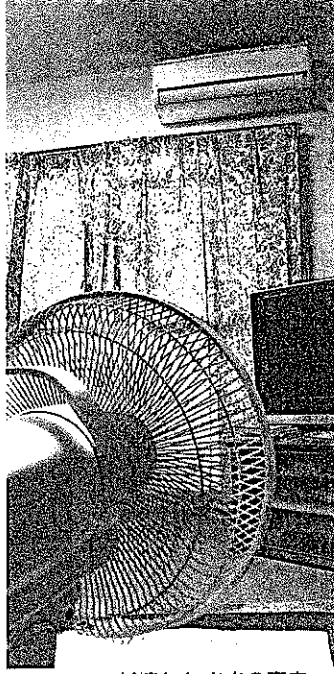
# 低所得者迫る熱中症

## エアコン買えず 修理代も出せず…

今夏、記録的な猛暑となる中、生活保護を受けている人など低所得者が熱中症の危険にさらされている。福井県内でもエアコンが買えなかったり、電気代が払えず使用を控えたたりしているケースがある。国は生活保護受給者に対しエアコンの購入費支給を認められたものの対象が限定的で、支援団体は命に関わる問題、対象を拡大するなど緊急に対策を講じている。

(中野克樹)

### 購入補助 対象は限定的 県内支援者「対策を」



エアコンが壊れたままの室内。生活保護を受給する女性はカーテンを閉めて日差しを遮り、扇風機で過ごしている＝福井市内

福井県の手ごめによると、5月1日以降に熱中症の疑いで救急搬送された人は7日までに488人になり、昨年同様の2倍。中には部屋にエアコンがなかったり、設置していても稼働させていなかったりする人がいるという。福井市の貧乏マンションで1人暮らしする50代のアルバイト女性は昨年、自費で約10年前に取り付けたエアコンが故障した。夏場の病気を患いフルタイムで働くことが難しくなったため、月10万円ほどの生活保護費を1昨年からの受給しているが、保護費は食料や電気代に消え、エアコンは壊れたままだ。「修理しようとしたけれど買った方が安上がりだと分かっていた。貯蓄だけでは足りず、

借金すると収入とみなされ(生活保護の)支給額が減ってしまう。にっちもさっちもいかならないと嘆く。女性はこの夏、頭痛と吐き気に襲われ、何度も熱中症になりかけた。夜も気温が下がらず、扇風機では寝苦しいため睡眠不足が続く。今春就職した娘は昨夏、暑さに耐えられず、友人宅や親戚に身を寄せた。友人宅や親戚に身を寄せた。友人宅や親戚に身を寄せた。友人宅や親戚に身を寄せた。

厚生労働省は、暑さが本格化する前の6月下旬、熱中症対策のため、本年度から生活保護の受給を始めた世帯で要件を満たせばエアコン購入費用と設置費用の一部を支給することを認め、各都道府県などへ通知した。しかし、1昨年から受給している女性は対象に含まれず「もし制度を利

用できるならエアコンを買い替えていた。生活保護者の中で差別されるのはおかしいのでは」と疑問を投げかける。生活困窮者を支援する財団「生活困窮者支援会」は、福井市で生活保護を受けている無職の高齢女性は先月、熱中症の疑いで医療機関を受診した。部屋にはエアコンがなく、国の支給対象者にもなっていない。このままでは危険

との周囲の説得を受け、電気店の好意で安くエアコンを買い、安心して生活できるようになったという。「エアコンがあっても電気代が心配で使うのを我慢している」「解体現場を歩き回りクーラーを譲ってもらえないか探している人もいます」。同連絡会は7日、エアコン購入費支給や電気代補助などを拡大し熱中症対策を強化する

よう、四川一誠知事宛てに申し入れた。同会メンバーは「生活が厳しい中どうやって購入費を捻出するのか。国の制度は実態に見合っていない、矛盾がある」と指摘した。対応した県地域福祉課は「税金を使い(低所得者)最低限の生活を保障する制度、必要なものは生活保護費でまかなうのが原則で、国が

示す全国統一の基準に従わざるを得ない」との見解を示しつつ、対策を求める書が他県でも高まった場合、全国知事会などを通じて国へ要望する可能性もある」としている。同課によると、生活保護受給者は6月時点で県内に4116人おり、8月8日までに手続中を含め計7人がエアコン購入費支給制度を利用した。